

周作クラブ会報

(第88号)
2022年8月25日発行

周作クラブ

◆主な記事◆

セミナー報告 月曜会について ゲッセル氏からの寄稿 連載・樹座の30年② 会員寄稿 遠藤周作文学館便り 周作クラブ長崎便り お知らせ欄	2 3 4 5 6 7 7 8	1 面 3 面 4 面 5 面 6 面 7 面 8 面
--	--------------------------------------	--

報告——オンラインで「文学セミナー」開かれる

朗読&トーク 遠藤周作著『稔と仔犬』

7月9日(土)、3年ぶりの「文学セミナー」がオンラインで開催された。これまでは「遠藤文学原点の旅」の勉強会として行われてきたが、コロナ禍で旅の中止が続く、今年は「文学セミナー」だけが独立して開催された。テーマは、先に刊行された遠藤周作の新作『稔と仔犬』の朗読&トークで、参加者は19名。14時から、幹事の加藤宗哉氏の進行で開会した。

まず、出版の経緯について、河出書房新社版『稔と仔犬』の解題・解説を担当した今井真理氏から話がいった。作品は1955年から1956年にかけてカトリック系新聞「新世界」に連載されたもので、遠藤周作文学館に切抜き(一部)が保管されていたが一昨年からの資料



オンラインセミナーにて。左から今井真理氏、亀岡園子氏、加藤宗哉氏

調査や、町田市民文学館の協力により、残りの切抜きも発見され、全13回分が揃ったという。

この日の朗読は、会報副編集人で、女優の亀岡園子氏。まず、『稔と仔犬』の冒頭近く——主人公の少年「稔」が学校帰りに拾った仔犬を捨ててくるよう母から言われて夕方の野原をさまよう場面や、戦争で死んだ父との思い出、夢の場面。今井氏によれば、遠藤文学には共通して「雲」「光」「薔薇」「口笛」等の風景描写や言葉に注目点があり、たとえば夢のシーンの「羊の毛のような巻き雲」は神の子羊を連想できるし、「薔薇」も聖母マリアの象徴、また「神の光」「息」など、カトリック作家としての言葉を意識することとで遠藤作品をより深く楽しめるという。

朗読第2部は、空気銃を持った級友から、「稔」が残忍な選択を強いられる終末部。ここへきて亀岡氏の朗読は迫力を増し、級友の脅しの口調、稔の動揺、そこへ薔薇色に染まるマリア像の表情が重なって聴く者を惹きつけた。

新聞連載時は、その第13回の翌号に「今回は休みました」と断り書きが残されているのだが、結局、続きは発見されず、連載が完了したか打切りになったかは不明のまま。

朗読の後、参加者からは、「マリア像と『沈黙』の踏絵が重なる」、「5年生の娘と続きを考えたい」、「きつと神父様が登場して助けてくれる」などの感想が語られた。最後に今井氏から、新聞発表時、挿絵を描いた江副隆愛氏が遠藤周作の上

智大学での同級生であったことが昨年、ご遺族からの連絡で判明したというエピソードが紹介され、今年の企画セミナーは16時に終了した。
(記・清水優子/写真・伊東智香)

「2022周作忌」のご案内

——今年会場参加で、ビデオ鑑賞

今年の「2022周作忌」は、昨年に引き続き慶應義塾大学「三田文学会」との共催で、左記のように行います。例年は9月29日に行われてきましたが、今回は命日に最も近い休日に決まりました。

なお、今年会場参加だけでなく、オンラインによる参加はできません。新型コロナウイルス感染症の拡大の状況によつては、会場への入場者数が制限される可能性がありますので、必ず事前にお申込みをお願いいたします。

日時 9月25日(日)
14時～15時半まで
(13時半開場)

内容 遠藤周作「母なるもの」人間の同伴者(60分)上映
解説・加藤宗哉

1992年・プレジデント社刊
「ビデオ&ボックス」

◆映像の内容……『沈黙』執筆から20年が経った頃、著者自ら小説の舞台・長崎を再訪。自作について、その後の後悔と問題点、『沈黙』批判への反発などを語ります。

会費 無料

会場 慶應義塾大学三田校舎内・北館ホール

▽田町駅(JR山手線/JR京浜東北線) 徒歩8分
▽三田駅(都営地下鉄線/三田線) 徒歩7分
▽赤羽橋駅(都営地下鉄大江戸線) 徒歩8分

※大学の規定により、マスクの着用をお願いしております。また入口での検温にご協力いただきますので、あらかじめご了承ください。

■申込方法

会員の方は会報同封のハガキでお申込みください。同伴者の方はその方のご氏名をお書き添えください。

この会報をご覧になって参加を希望される方はメールで左記の「周作クラブ・アドレス」までお申込みください。(9月15日締切)。

E-mail: Shusaku_club@yahoo.co.jp
主催・遠藤周作忌実行委員会/周作クラブ/三田文学会

(周作クラブ総会については8面のお知らせ欄をご覧ください。)